

平成 29 年度

視察等の届出・報告書

(届出番号 1～3)

平成 29 年度 視察等の届出・報告書 (1~3)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
1	6月8日 ~9日	小田康文	大月説子・庄司史郎・ 谷本彰良・初本勝	和歌山県紀の川市 (2017 ほたるサミット in 紀の川)



様式第1号

平成29年 5月19日

真庭市議会

議長 長尾 修 殿



真庭市議会議員 小田康文



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先 和歌山県紀の川市
紀の川市粉河ふるさとセンター

和歌山県紀の川市粉河580番地

3 内 容 2017ほたるサミットin紀ノ川に参加
議員発議による真庭市ホテル保護条例(仮称)策定
に向けて、真庭市に適した条例にするために他市の
ホテル保護の状況などを視察する

4 行 程 別紙のとおり 6/8~9

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

2017 ほたるサミット in 紀ノ川 参加議員名簿

森真会

小田康文、大月説子、庄司史郎、~~竹原茂三~~、谷本彰良

5/24 欠席 欠席

緑真会

河部辰夫、築澤敏夫、初本 勝

2017ほたるサミット in 紀の川 開催要領

テーマ「ふるさと^{あした}の未来を^ひてらすほたるの灯」

1. 「ほたるサミット」について

(1) 経 緯

平成元年に環境庁（現環境省）により全国で119カ所選定された「ふるさといきものの里」の中で、ホタルの里として選定を受けた市町村から日本一のほたるの里を目指す自治体の代表が集まり、平成元年から毎年「ほたるサミット」を開催しています。

(2) 目 的

豊かな自然が残る環境に住みながらも、自然を見つめることが少なくなっている今日、日本一のほたるの里を目指す市町の首長が一堂に会し、ホタルを通じて自然に対する理解を深め、その保護に努めるとともに、生きものたちのいのちをつないでいく取り組みとして、生物多様性の保全に努め、生活環境の整備や観光、経済、文化交流等を促進し、活力ある緑豊かなふるさとづくりを推進します。

(3) 趣 旨

古くから人間と共生してきたホタルは、環境の変化に敏感なため、自然環境のバロメーターとして貴重な役割を果たしています。ホタルの光は私たちに心の安らぎを与えてくれるだけでなく、その環境が安全であることまで教えてくれます。

私たちの生活環境が変化していく中で、人間が及ぼした大気汚染、水質汚濁など様々な環境問題が発生する近年では、今一度自然環境の大切さを考えなおす必要に迫られています。

私たちは、ホタルの保護を通じて自然環境を悠久に守る道を模索するため、「日本一のほたるの里」を目指す指導者が一堂に会し、活力あるふるさと作りを考える交流の場として、「2017ほたるサミット in 紀の川」を開催します。

9. 開催日程

6月8日(木)		
12:00	受付	紀の川市役所
13:00	歓迎式	
13:20	ほたるサミット参加市町連絡協議会	めっけもん広場
14:10	視察	西国 33 所札所第 3 番 風猛山 粉河寺 青洲の里 春林軒
18:00	歓迎レセプション	粉河ふるさとセンター 小ホール
20:00	ほたる観察会	紀の川市江川中 重谷川
21:30	宿泊	ホテルグランヴィア和歌山
6月9日(金)		
9:00	受付	紀の川市粉河ふるさとセンター
9:10	参加市町長打ち合わせ	
9:30	ほたるサミット オープニング 開会式 活動報告 ほたるフォーラム 共同宣言発表 引継式 閉会あいさつ	
12:00	閉会	
13:00	昼食後解散	



様式第2号

報 告 書

平成 29年 9月 5日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 大月 説子



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成 29年 6月 8日 (午前・午後) 13 時 00 分 至 平成 29年 6月 9日 (午前・午後) 13 時 00 分
2	場 所	和歌山県紀の川市紀の川市役所 (6月8日) 和歌山県紀の川市粉河ふるさとセンター (6月9日)
3	用 件	1.ほたるサミット参加市町連絡協議会に参加し、他参加市町の方との交流を深める。 2.ほたるサミットに参加し、環境問題や生物多様性の保全に関する参加市町村の取り組みを把握し、真庭市の環境保全活動に活かす。
4	概 要	13:00 歓迎式 紀の川市役所にて 13:20 ほたるサミット参加市町連絡協議会 14:10 視察→ めっけもん広場、風猛山粉河寺、青洲の里春林軒 18:00 歓迎レセプション 粉河ふるさとセンター 20:00 ほたる観察会 紀の川市江川中 重谷川 21:30 宿泊先へ



報告書（継紙）

9：30 ほたるサミット 紀の川市粉河ふるさとセンター

テーマ 「ふるさとの未来をてらすホタルの灯」

ホタルの保護を通して、自然環境を悠久に守る道を模索するために、「日本一のほたるの里を目指す指導者が一堂に会し、活力あるふるさとづくりを考える交流の場として「2017ほたるサミットin紀の川」が開催された。

内容：各参加施設の活動報告、ほたるフォーラム、共同宣言発表、引継式など

12：00 閉会

13：00 解散

視察報告

紀の川市ほたるサミット参加施設は、福岡県北九州市、山口県下関市、滋賀県米原市、愛知県阿久比町、和歌山県紀の川市、岡山県真庭市の6施設であった。取り組みの目的は、①ホタルが住めるような環境を保つことを通して、環境問題や生物多様性の保全に対する住民意識を高める。②ホタルが住めるような環境保全活動子供たちに伝える。③ホタルが住めるような環境保全活動を継続することで、地域コミュニティを醸成する6施設の取り組み内容は違いが有っても、目的は同じで、特に子供たちに伝え、環境保全の教育に活かしておられることが印象的でした。

来年真庭市がサミット開催地ということもあり、北房振興局の職員等大勢参加されていきました。今回の視察では、ホタルが住めるような環境保全活動を行う重要性のみならず、地域コミュニティの形成、子供たちへの教育につなげることを学びました。ホタル、見学は夜なので、安全対策、防犯対策も重要と思いました。今回の視察で、北九州市の方々との交流を深めることができました。来年は、真庭市で開催されるとのこと、微力ながら何かお手伝いできれば幸いです。





平成30年3月30日

真庭市議会議長

長 尾 修 様

真庭市市議会議員 庄 司 史 郎



研 修 報 告 書

平成29年6月8日(木)～9日(金)にかけて和歌山県紀の川市において開催されました2017ほたるサミット in 紀の川に研修参加しましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

- 1、日 時 平成29年6月8日(木)～9日(金)
- 2、場 所 和歌山県紀の川市粉河580番地粉河ふるさとセンター
- 3、開催趣旨 地球温暖化など様々な環境問題が発生している現在において、今一度自然環境の大切さを見つめ直し、自然環境を悠久に守る道を模索していかなければならない。その一つの取り組みとして、「日本一のほたるの里」をめざす首長が一堂に会し、活力あるふるさとづくりを考える交流の場として「2017ほたるサミット in 紀の川」を開催。
- 4、参加自治体 岡山県真庭市、福岡県北九州市、山口県下関市、滋賀県米原市、愛知県阿久比町、和歌山県紀の川市の6自治体
- 5、参加者 (真庭市議会議員) 初本勝、小田康文、大月説子、谷本彰良、庄司史郎
(真庭市執行部) 太田昇市長他6名
- 6、内 容 6月8日(木)
13:00 歓迎式

13:20～紀の川市の概要説明

平成17年11月に打田町、粉河町、那賀町、桃山町、貴志川町の5町



が合併して誕生。

人口6万4千人、面積228,24km²、面積の約2割が耕地となっており、その3分の2が果樹園。

基幹産業は農業、そのうち7割がフルーツ、県内一で全国的にも有数果物生産地。

(桃、柿、みかん、八朔、梅、すもも、イチジク、キウイフルーツ、イチゴ)年間を通じ様々なフルーツを収穫できる。

所得の一番高い果物はキウイフルーツとのこと。反収100万円~130万円で農家所得1,000万円を超える農家も多いとのことであった。

紀の川フルーツ・ツーリズム

フルーツを地域資源の中心にし、紀の川市の人、歴史、文化等の魅力を発信していく地域おこし団体として設立(平成26年8月)

そして、平成28年12月「一般社団法人 紀の川フルーツ・ツーリズム」として設立登記。

フルーツ・ツーリズムの取り組み

料理チーム・・・フルーツ料理を楽しめる飲食店の展開・拡大、フルーツ料理の普及。

商品チーム・・・フルーツ商品の開発、フルーツを活用した商品開発の企業連携。

体験チーム・・・体験型交流催しの企画・運営。

学びチーム・・・フルーツ講座の開催。

紀の川フルーツ体験!ぶるぶる博覧会「ぶる博 2017」の開催

果物にちなんだ65の体験催しを市内全域で開催。

これらの取り組みが、多くの市民、地元企業を巻き込んで展開されており地域おこしのモデルのひとつとしても注目できる。

14:30~「めっけもん広場」視察

紀の里農業協同組合が平成12年11月3日にオープンしたJA紀の里ファーマーズマーケット「めっけもん広場」を視察。野菜や果物だけでなく生鮮食品も販売、四季を通じて地場産の旬を取り揃えると共に、毎月の旬や催事に合わせた料理の実演や試食販売等も行っている。イベントも毎月開催されている。

関西国際空港から車で約1時間と近く、地元だけでなく堺市、阪南市、和歌山市、海南市などから多くの人を訪れており、大変賑わっている。桃の時は1日の売上は4,000万円超とのこと。

6月9日(金)

9:00～受付

9:30～「ほたるサミット in 紀の川」開会

各市町村紹介(太田市長が真庭市について紹介)

コーディネーターに近畿大学生物理工学部地域交流センター長仁藤伸昌氏をアドバイザーに環境省自然環境局生物多様性センター情報システム企画官田中庸夫氏を迎えて、パネルディスカッション。

豊かな水と緑に恵まれた自然を保ち続けているふるさと、そこに生息するホタルは、自然環境のバロメーターとして貴重な役割を果たしている。しかし、便利さを優先した結果、地球温暖化などの様々な環境問題により、ホタルをはじめ生物の生息環境は悪化し、世界中で数多くの野生生物が絶滅の危機に瀕している。生物多様性を保全するため、社会や人間のあり方を今一度真剣に見つめなおすことが重要。

「ほたるサミット in 紀の川」共同宣言を採択

次期開催地市長として太田真庭市長があいさつ

13:00閉会

最後に

平成30年度のほたるサミット会場は真庭市。サミットの成功に向けて、多くの真庭市民の参加が得られる工夫と取り組みが重要となる。

ホタルを地域おこしの地域資源として活用して、地域の活性化を考えた取り組みが行われているが、地域おこしの地域資源というよりも、地域の良好な自然環境を保全していくためのシンボルとして、ほたるサミットの趣旨にある自然環境を悠久に守る道を模索していくことが一番大切なことであると考えます。

多くの市民を巻き込んだサミットとならなければ、サミット開催の意義は薄れ、費用対効果の面からも、今後継続的にほたるサミットを開催していくことに疑問を生じることとなる。

以上

平成 29 年度 視察等の届出・報告書 (1~3)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
2	7月27日 ~28日	緒形尚	氏平篤正・柴田正志	東京都・(株)地方議会総合研究所(議会 広報セミナーほか)

平成29年 6月 6日

真庭市議会
議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員 緒形 尚

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

- 1. 東京：アットビジネスセンター池袋駅前別館
- 2. 東京：新宿区新宿1-15-9 さわだビル10階
- 3. 東京：衆議院議員会館・参議院議員会館（調整中）

3 内 容

- 1. 見に見えて進む広報改革、もっと読まれる広報紙へ 講師：吉村 繁氏
 - ・議会広報の現状と課題
 - ・住民参加が広報を変える
 - ・注目したい先進事例
 - ・広報紙づくりのスキルアップ&クリニック
- 2. 広報紙について (公益) 日本広報協会常務理事 渡辺 昭彦氏
 - ・議会広報のあり方
 - ・議会だよりクリニック
- 3. 地元選出国會議員との意見交換（調整中）

4 行 程 別紙のとおり 7/27(7)~7/28(金)

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること



● 参加議員

・ 氏平 篤正 ・ 柴田 正志 ・ 緒形 尚

● 研修会行程表

7月27日(木)

	真庭市役所
5:30	車
	落合IC
	賀陽IC
	岡山空港
7:10	ANA652便
	羽田空港
8:25	歩く 200m (3分)
	羽田空港国内線ターミナル駅
9:03	京急空港線・エアポート急行 6駅 (13分)
	京急蒲田駅
	京急本線・エアポート急行 4駅 (12分)
	品川駅
9:28	歩く 50m (1分)
	品川駅
9:33	JR山手線・各停 1駅 (2分)
	大崎駅
	11駅 (24分)
	池袋駅
10:00	歩く 50m (1分)
	アットビジネスセンター池袋駅前別館
	研修会 (10:00~12:30、14:00~17:00)
	池袋駅
17:32	丸ノ内線・各停・荻窪行
17:46	7駅 (14分)
	大手町駅
17:53	千代田線・各停・代々木上原行 5駅 (8分)
	赤坂駅
18:01	歩く 500m (6分)
	赤坂陽光ホテル
18:06	

7月28日(金)

赤坂陽光ホテル

歩く 500m (6分)

赤坂駅

9:39 千代田線・各停・松戸行

国会議事堂前駅

9:41 歩く 40m (1分)

国会議事堂前駅

9:46 丸ノ内線・各停・新宿行
4駅 (8分)

新宿御苑前駅

9:54 歩く 250m (4分)

公益社団法人 日本広報協会

10:00 研修 (10:30~12:00)

新宿御苑前駅

13:08 丸ノ内線・各停・池袋行
4駅 (8分)

国会議事堂前駅

13:16 歩く 300m (4分)

衆議院・参議院議員議員会館

13:20 意見交換 (予定:13:00~15:00)

歩く 300m (4分)

溜池山王駅

15:35 銀座線・各停・浅草行
2駅 (3分)

新橋駅

15:38 歩く 140m (2分)

新橋駅

15:43 JR山手線・各停・渋谷方面 (外回り)

浜松町駅

15:45 歩く 70m (1分)

浜松町駅

15:52 東京モノレール・空港快速
2駅 (18分)

羽田空港国内線ターミナル駅

16:10 歩く 200m (3分)

羽田空港

18:05 ANA657便

岡山空港

19:20

賀陽IC

20:00

落合IC

20:30

真庭市役所


20:40



様式第2号

報告書

平成 30年 3月 30日

報告者 真庭市議会議員 氏名 氏平 篤正 
(同行: 緒形 尚、柴田 正志)

下記のとおり政務活動費を利用して 調査研究・研修会・要請活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1日 時

自 平成29年7月27日 (午前・午後) 5時20分

至 平成29年7月28日 (午前・午後) 9時30分

2場 所

- ・東京都池袋 アットビジネスセンター603号室
- ・東京都新宿 東京都議会・東京都庁
- ・東京都新宿 公益社団法人 日本広報協会
- ・東京都千代田区 国会議事堂、参議院・衆議院議員会館

3 要件及び概要

◎7月27日(木) 10:00~12:30 目に見えて進む広報改革

14:00~17:00 もっと読まれる広報紙へ

講師 吉村 潔 氏

(エディター、広報アナリスト日本広報協会アドバイザー)

5時間30分と長い時間講演を聞いたが、目からウロコであった。議会で決定したことを正確に分かり易く伝えることが、議会広報の役目と思っていたが、まるで違った。市民が知りたい情報を届けることが基本で、議員(市民代表)が質問したことの解説、議会を認知してもらうために市民を広報紙に載せること、知って得する情報を載せること、読ませるためのたくさんの手法を教わった。しかし真庭市議会だよりをどこまで変えることが必要か、またできるか、



考えさせられる研修となった。真庭市議会だよりもクリニックしてもらい講演会の中で登場したので、記憶するため記しておく。〈良〉全面表紙は迫力がありきれい。裏の住所等を書いている緑色の帯は立派なデザインだ、皆さん参考にして下さい。レイアウトもきれいで洗練されている。オールカラーで写真も立派で明るい広報紙である。〈悪〉議案を順番に全部載せている、しかも説明のみ。議案を選択して、市民が知りたいものを載せることが大切。市民は何があったのか知りたい、暮らしに直結したものを知りたい、議案は全部でなく選ぶべきである。最初から続けて読んで下さいとなっている。もっと見出しを大きくして目を引くようにすること。「〇〇について」は使わないこと。文章を流すのでなく、Q&Aを入れると読み手の休憩となる。重要な問題は文章を流すのではなく特集すべき。議会の動きのページは興味を引きにくい、終わった行事だから市民は関心ない、閉会中の議会活動として記憶にとどめて欲しいことを写真付きで載せること。議員は閉会中も仕事をしているんだぞと、伝えること。〈正式なクリニック紙は議会事務局が保存している、かなり厳しい〉・緒形氏と吉村先生に挨拶に行き、視察先はどこが良いか聞いたところ、丹波市を中心に兵庫県内をたくさん見るのが良いとアドバイスをもらった。

◎7月28日(金) 9:00~10:30

東京都議会を視察、2階の広報展示室、案内人が2人いた。6階の第15委員会室、7階の本会議場を見学した。素晴らしい。東京都庁屋上での日本の物産品を見学(岡山県ブースに蒜山高原の商品もあった)、お客の9割が外国人であるが爆買い姿は見られなかった。

◎7月28日(金) 10:30~11:30

日本広報協会

渡辺昭彦常任理事による講演+クリニック

(山崎日出男理事長へあいさつ、情報デザイン室、中城貴之係長同席)

広報力を身につける~15のポイントとして、

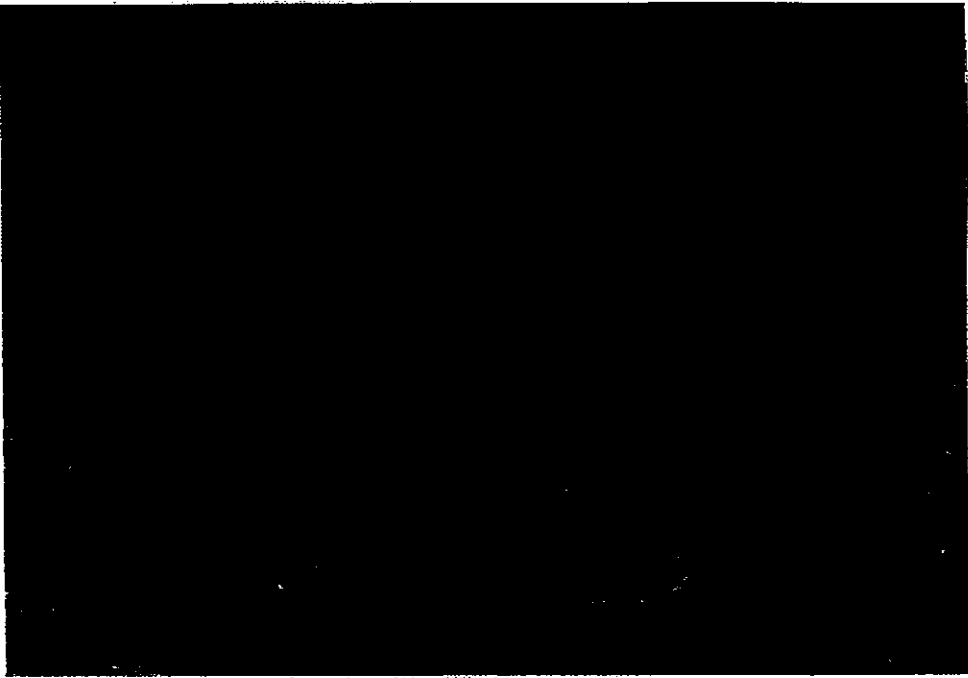
さすが日本のトップが語る広報論である。流石とは石が流れると書くが、まったくその通りで有無を言わせぬ完璧な15項目の内容であった。特別にいただいた真庭市議会だよりのクリニックを記しておく。(評)一定のレベルを有しているが事務的にまとまりすぎている。全部5段組みのフォーマットになっており、少しは変える必要がある。議員の顔だけでは面白みが

ない、議員のプロフィールや私服の議員の紹介など工夫が必要。議案を順番に載せるのではなく、テーマごとに分類すべき、市民が知りたい情報を議案の中から選んで載せることが大切。「〇〇については」使わないこと、とても不親切だ。一般質問は、問の題と答の題をつけると良い。文章が長い、見出しを大切にすること。ピンクに白ヌキは読めない、目の弱い人のことを考えること、濃くするか色を変えるべきである。裏ページは整理が必要で毎回同じでなく、用語の解説とか、議員になるにはとか、市民が読んで得する企画物を加えること。議会の動きのページの空きスペースはもったいない、写真を使い工夫すること。横書きのフォーマットがあっても良い。

◎7月28日(金) 12:00~15:30

国会議事堂の食堂での昼食体験、参議院本会議場、予算委員会室等を警備員(女性)説明案内により見学、参議院議員・小野田紀美氏と秘書の案内で自民党本部を見学、参議院議員会館の小野田紀美事務所、衆議院議員会館の平沼赳夫事務所へ挨拶、「真庭市の課題や今後の展望」について意見交換した。

広島県教育委員会



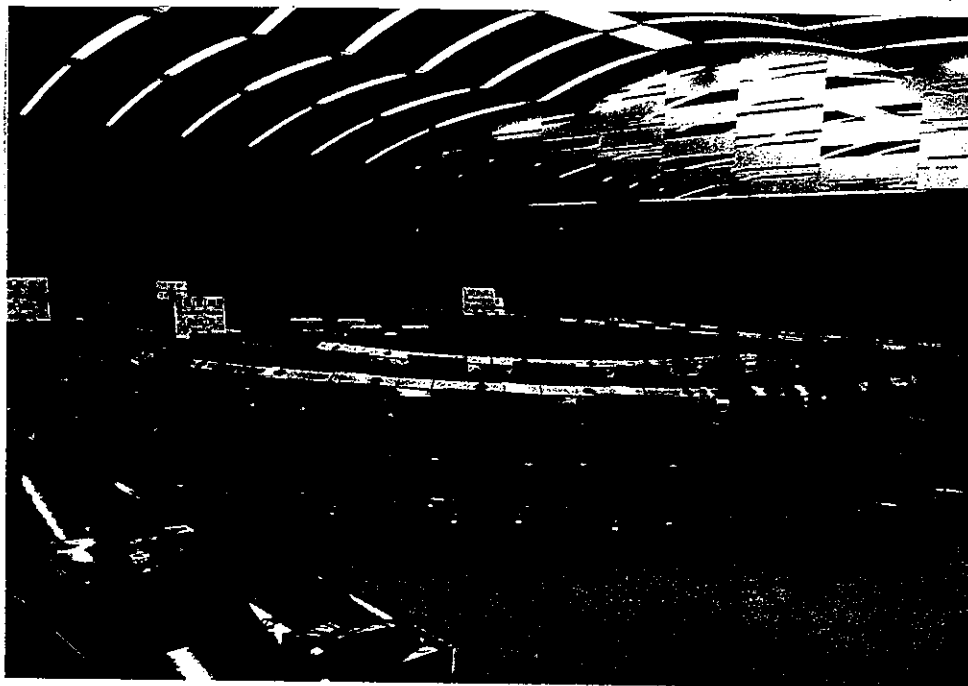
真庭市議会 だよりも教材として使われた



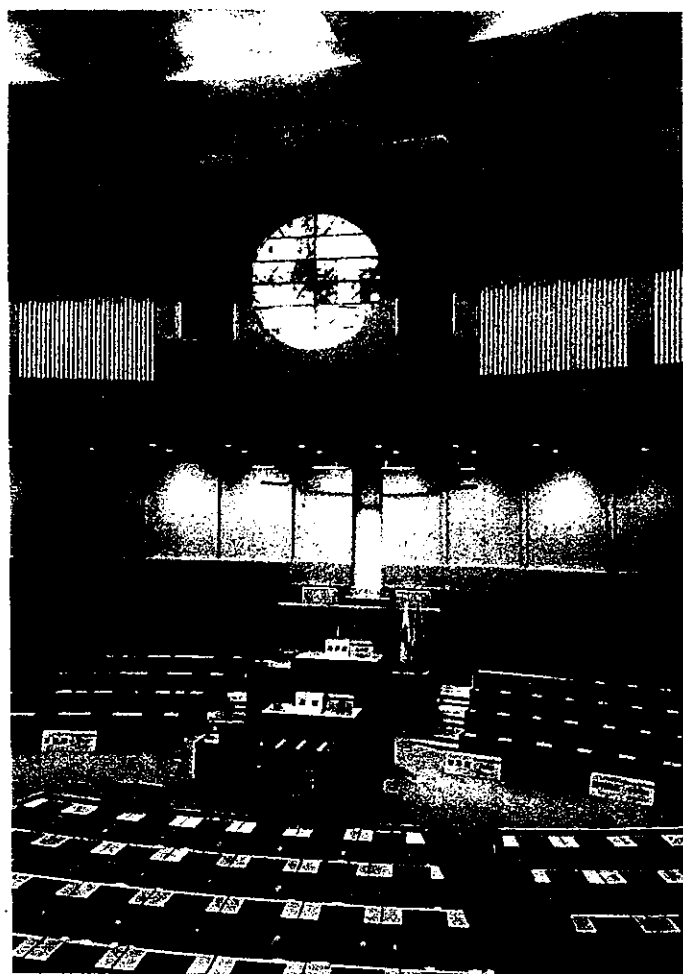
会場全体 参加者名簿別にある



先遣地の視察先を捕まえて吉村先生のもとに。



6階の第15委員会室 左の机の上に画面あり

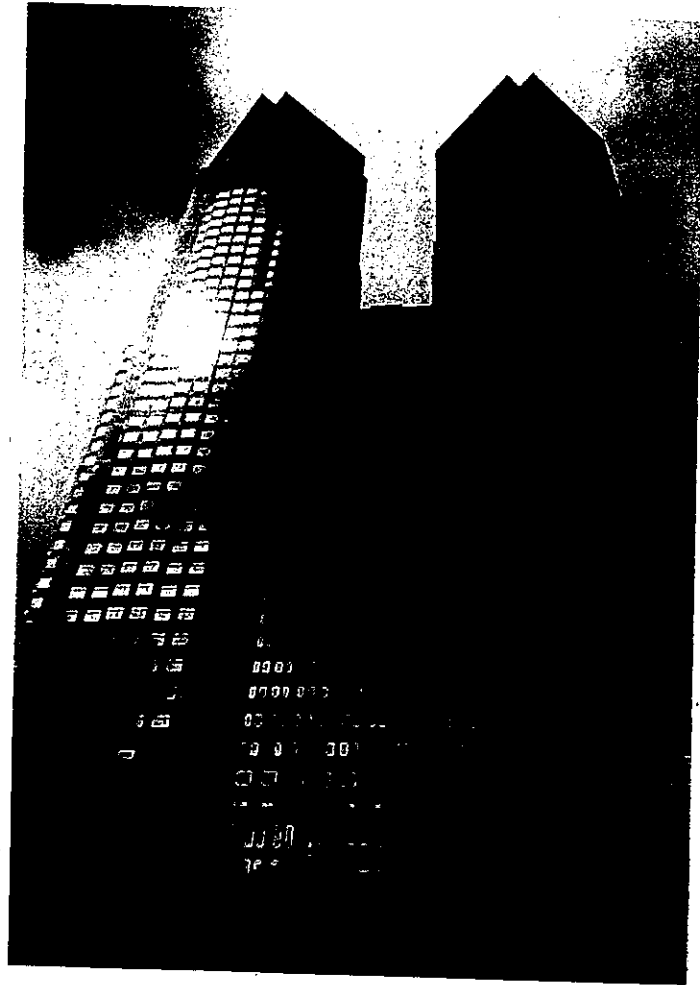


7階本会議場 上の丸はテレビ映り込み

東京都



屋上での物産展、同じくは晴水園ボタ-た。



東京都 下から見上げる。



左から後田昭彦氏、日本協会常務理事
永敏



←ここに柴田正志氏
が立っている

記念撮影。右から永敏氏

平成 29 年度 視察等の届出・報告書 (1~3)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
3	7月19日 ~20日	妹尾智之		東京都・(株)社会保険研究所(地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー)

議長



副議長



局長



GL



係



国 寛



様式第1号

平成 29 年 6 月 28 日

真庭市議会

議長 長尾 修 殿

真庭市議会議員

妹尾 智之



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

(株) 社会保険研究所

3 内 容

地方から考える「社会保障フォーラム」

4 行 程

別紙のとおり(7/19~7/20)

5 事務局から訪問先への依頼

必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



公明党真庭市議団 研修日程表

期 日	行 程
7月 19日(水)	真庭市 →→→ 岡山空港発 (ANA654便) >>> 羽田空港着 == (株)社会保険研究所(セミナー) 13:00~17:50 7:15 9:25 10:45 13:00 → 秋葉原ワシントンホテル(宿泊)
7月 20日(木)	秋葉原ワシントンホテル → (株)社会保険研究所(セミナー) 10:00~15:10 羽田空港発 (ANA657便) >>> 岡山空港着 →→→ 真庭市着 18:05 19:20 20:30

【 研修先 】

保険

(株)社会保険研究所

東京都千代田区内神田2-4-6

電話:03-3253-0570

【 宿 泊 】

秋葉原ワシントンホテル

東京都千代田区佐久間町1-8-3

電話 03-3355-3311

議長 副議長 局長 GL 係 回覧



様式第2号

報告書

平成 29 年 7 月 21 日

真庭市議会議長 長尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 妹尾 智之



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 平成 29 年 7 月 19 日 (午前・午後) 13 時 00 分 至 平成 29 年 7 月 20 日 (午前・午後) 15 時 15 分
2 場 所	(株) 社会保険研究所
3 用 件	第13回地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー
4 概 要	第13回地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー 7月19日(水) 講義内容 講義1 「障がい者の就労～農福連携も含めて」 講師：内山 博之 厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課長



報告書（継紙）

講義2 「厚生労働省の考える『我が事・丸ごと』地域共生社会とは」

講師：野崎 伸一 厚生労働省 政策企画官

講義3 「社会保障は誰のため？何のため？」

講師：権丈 善一 慶應義塾大学商学部教授

7月20日（木）

講義1 「生活保護の新しい展開」

講師：鈴木 建一 厚生労働省 社会・援護局保護課長

合議2 「地域包括ケアシステムの深化と地方自治体の役割」

講師：三浦 明 厚生労働省 医政局 経済課長（前 老健局振興課長）

取材の現場から

社会保険研究グループ

『社会保険旬報』 谷野 浩太郎 編集長

『年金時代』 阿部 正大 編集長

(株) 社会保険出版社

(株) フィスメック

報告書（継紙）

【 感想 】

「障がい者の就労～農福連携も含めて」

障害者優先調達推進法に基づく調達方針の策定状況で、策定の有無は厚生労働省のHPで公表している。（真庭市は策定していました。）

障害者就労については事例の紹介がありました。栃木県のこころみ学園のココ・ファーム・ワイナリー。1950年代に、特殊学級（現在の支援学級）の中学生たちによって開墾された葡萄畑が、ワインづくりの原点になっている。歴史のある取組みで、成功事例の一つであります。

農福連携、就農促進プロジェクト（新規）で今年度から予算化されている。真庭市も取り組むべきと思います。

「厚生労働省の考える『我が事・丸ごと』地域共生社会とは」

大田区の実例紹介がありました。太田高齢者見守りネットワーク（みま～も、NPO法人）「みま～も」は大田区以外でも取組まれており大阪府岸和田市、神奈川県大和市等でも取組まれている。地域の皆で高齢者を見守っていける共生社会の実現が必要ではないか。

「生活保護の新しい展開」

生活保護世帯では、高校生が進学のためアルバイトをして貯蓄した預金を保護支給から差し引く為に、進学をあきらめる状況に陥る場合がある。今後は、進学目的の高校生の預金は免除すべきではないか、と言った意見もあり。今後の検討課題として頂いた。